

図画工作科学習指導案

I 題 材 とろとろえのぐで

II 考 察

1 題材観

(1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱

③学びに向かう力・人間性等

絵の具の感触を楽しみ、自分の思い付いたことを形や色で表すことに意欲的に取り組む態度

①知識・技能

手や指による表し方の違いに気付き、その特徴を生かして形や色を工夫する力

②思考力・判断力・表現力等

絵の具の感触から感じたことや、表現から感じ取った面白さやよさを基に、表したいことを思い付く力

(2) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

A表現

(2) 感じたことや想像したことを絵や立体、工作に表す活動を通して、次の事項を指導する。

ア 感じたことや想像したことから、表したいことを見付けて表すこと。

イ 好きな色を選んだり、いろいろな形をつくって楽しんだりしながら表すこと。

ウ 身近な材料や扱いやすい用具を手を働かせて使うとともに、表し方を考えて表すこと。

(3) 題材の価値

本題材は、液体粘土を混ぜた絵の具を使って、手や指で思いのままに描くことを楽しみ、思い付いたことを、表し方を工夫して絵に表す学習である。その価値は以下のとおりである。

子どもたちは、絵の具を手や指で直接触れて描くことによって、絵の具の伸び具合を味わったり、指の跡の形の変化に気付いたりしながら、絵の具を手のひらで伸ばして塗ったり、指先で点を打つように描いたりするなど、思い付いたことに合わせて表し方を工夫することができる。

また、絵の具の粘性を変化させることによって、絵の具の感触や伸び具合を感じながら、色の混ざり具合や塗った跡の形の面白さや美しさに気付いたり、表したいものを思い付いたりすることができる。

さらに、手や指を使って大胆に描くことを楽しみながら、自分なりに表し方を考えたり、思い付いたことを思いのままに絵に表すことの楽しさを味わったりすることができる。

本題材で扱う教材の価値は、以下のとおりである。

本題材では、液体粘土を混ぜて粘度を高めた絵の具を主な教材として扱う。絵の具は、これまで、筆を使って混色したり塗ったりした経験があり、液体粘土を混ぜることにより、通常の絵の具では感じることの少ない絵の具の伸びや、とろとろした感じを手や指で感じて、塗り心地を味わいながら描くことができる。また、指の跡を残して表現することができ、手や指の使い方を工夫して様々な塗り方を試すことができる。そして、液体粘土は白色で、絵の具に混ぜると明度が高くなるため、画面上で自由に混色しても色が暗くなりすぎず、全体として高明度配色の画面となり、明るい印象の作品をつくることができる。さらに、絵の具に液体粘土を混ぜると不透明色になるため、子どもの思いに合わせて、少し乾いた後に色が混ざらないように重ねて塗ることもできる。

(4) 今後の学習

ここでの学習は、3年「物語の絵」での、物語を聞いて場面の様子を思い浮かべ、自分の表したいことに合わせてパスと絵の具の扱い方を工夫して絵に表す学習へと発展していく。

(5) 共通事項との関連 ※指導と評価の計画参照

2 児童の実態及び指導方針

子どもたちは、1年「ふぞくしょうの たのしいこと」において、附属小の生活で楽しかったことを思い浮かべ、場面の表し方を考えたり、パスや絵の具を基本的な扱い方で扱ったりして、自分の体験を絵に表す学習をしてきた。この学習の中で明らかになった子どもたちの実態及び本題材を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

- ① パスで描くところや絵の具を使うところなどを考え、基本的な扱い方で絵に表すことができた。このような子どもたちが、指の跡を残した表現や、手や指の使い方の工夫に気付くことができるよう、自分や友達の表し方やそのよさを自然に見合ったり、話し合ったりすることができる、椅子を外した作業台を馬蹄形に配置した場を設定する。
- ② 自分なりに楽しかったことを考えたり、自分や友達の表そうとしている場面の面白さに気付いたりすることができた。このような子どもたちが、絵の具の感触を基に表したいことを思い付いたり、できた形や色の面白さやよさに気付いたりすることができるよう、自分で使いたい色のとろとろ絵の具をつかって紙に塗る試しの活動を設定する。
- ③ パスや絵の具を使って、自分の体験を絵に表す楽しさを味わうことができた。このような子どもたちが、絵の具の感触を基に、自分なりに思い付いたことを思いのままに描く楽しさに気付いたり、自分の思いに合った表し方の工夫を振り返ったりすることができるよう、自分の描いた絵に題名を付ける活動を設定する。

Ⅲ 目標及び評価規準


Ⅳ 指導計画 ※Ⅲ・Ⅳについては、指導と評価の計画参照

V 本時の学習

- 1 ねらい 友達と作品や活動を見合ったり思い付いたことを話したりし、表したいことに合わせて手や指の使い方を変えながら、表し方を工夫して絵に表す楽しさを味わう。
- 2 準備 液体粘土を混ぜた絵の具 正方形の紙 タブレットPC 電子黒板
- 3 展開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
<p>1 本時の活動について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日は海を描きたいな。 <p>2 とろとろ絵の具の感触を楽しんだり、友達と話したりしながら、思い付いたことを描く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵の具がぬるぬるしてよく伸びるから、気持ちいいな。 ・指の跡が残るな。5本の指を使うと、一度にたくさんの線ができるよ。ぐるぐる描くと渦巻きができそうぞ。 ・小指で赤い点を小さく描くと、渦巻きに飲み込まれた魚を描くことができるよ。 ・友達は、爪でひっかいて描いているな。真似して描いてみよう。 ・渦巻きの底に、竜宮城が隠れているから、画面の右下の方に渦巻きの先っぽがくるように紙の向きを変えてみよう。 ・上の方は嵐の海だから暗い色にしよう。下の方は竜宮城だから明るい色にして、たくさんの魚を描いててみるといいかな。お宝も描いてみよう。 <p>3 友達と作品を見合いながら、自分の描いた絵に題名を付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5本の指でぐるぐる描いたり、指先でとんとん叩いて魚を描いたりしたから、「渦巻き海の秘密」という題名を付けたよ。また、手で描いてみたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の活動の見通しをもてるよう、前時の活動の映像を見せながら、表したいことについて問いかける。 ○思い付いたことに合った表し方を工夫することができるよう、椅子を外した、4、5人で活動できる作業台を馬蹄形に配置した場を設定し、友達と作品を見合ったり、感じたことや考えたことを話したりすることを促す。 ○絵の具の感触を基に描きたいことを思い付くことができるよう、感じたことや気付いたことを問いかける。 ○思い付いたことに合わせて表し方を工夫したことを振り返ることができるよう、手や指の使い方を変えている子どもや、指先や爪を使って細かく描いている子どもに意図を問いかける。 ○思い付いたことを意図的に表すことができるよう、作品を見返しながら、自分の作品の向きを検討している子どもを賞賛する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">評価項目</p> <p>自分や友達の作品や活動を見たり、思い付いたことを発言したりしながら、思い付いたことに合わせて描き方を変えて、自分なりに満足するまで描き続けている。 <作品・行動・発言></p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の思いに合わせた表し方を振り返ることができるよう、気に入った点と表し方の工夫について問いかける。 ○題材の活動を振り返ることができるよう、自分の作品に題名を付け、その理由を友達に紹介するよう促す。

指導と評価の計画（全4時間）

目標	絵の具の感触を基に、手や指で思いのままに描くことを楽しみながら、思い付いたことを、表し方を工夫して絵に表す。		
評価 規準	① 知識・技能) 思い付いたことを試しながら、手や指で思いに合った表し方を工夫している。 ② 思考力・判断力・表現力等) 絵の具の感触から感じたことを基に、試しながら生まれてくる形や色の面白さやよさを感じ取ったり、自分の表したいことや新たな造形活動を思い付いたりしている。 ③ 学びに向かう力・人間性等) 絵の具の感触を確かめて描く活動を楽しみながら、自分らしい見方や感じ方で思い付いたことを絵に表している。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
であ う	2	○自分で使いたい色のとろとろ絵の具をつくり、描き方を試す。	○自分なりに描きたいことを思い浮かべられるよう、自分で使いたい色のとろとろ絵の具をつくって紙に塗る試しの活動の特設して設定する。
ひろ げる ・あ らわ す	2	○とろとろ絵の具の感触を楽しんだり、友達と話したりしながら、思い付いたことを描く。  <作品例>	○思い付いたことを意図して絵に表せるよう、自分の作品の向きを意識できるような正方形の紙を用意する。 ○感じたことや考えたことを友達と話しながら活動できるよう、椅子を外した、4、5人で活動できる作業台を馬蹄形に配置した場を設定する。
ふり かえ る		○友達と作品を見合いながら、自分の描いた絵に題名を付ける。（本時2/2）	○作品を見直したり活動を振り返ったりできるよう、友達と作品を見合いながら題名を付ける活動を設定する。
共通事項	とろとろ絵の具の感触を基に、自分なりに表したいものの形や色のイメージをもつ。		

